

第7回中野区自殺対策審議会 議事録

日時 令和6年1月15日(月) 午後7:00~9:00

会場 中野区保健所 2階講堂

出席者

1.出席委員(12名)

大塚 淳子、白川 毅、小林 香、濱 玉緒、小松 美和、大倉 晴子、井上 直之、松田 和也、秋元 健策、齊藤 光司、遠藤 純子、曾我 竜也

2.欠席委員(3名)

吉成 武男、竹内 秀之、新實 康德(代理:細川 勝基)

3.事務局(4名)

保健所長 佐藤 壽志子

保健予防課長 鹿島 剛

中部すこやか福祉センター担当課長(所長) 鈴木 宣広

障害福祉課長 辻本 将紀(欠席)

【議事】

○事務局 鹿島課長

それでは、皆様、定刻になりましたので、ただいまより、第2期第7回中野区自殺対策審議会を開催いたします。

審議会は委員の半数、8名以上の出席が必要ということですが、本日は代理を含めまして11名の方にご出席いただいておりますので、条例の条件を満たすということで本日開催させていただきます。

審議会の運営につきまして、審議会は、中野区自殺対策審議会条例第6条の規定により、個人情報保護などの特別の理由がなければ、積極的に公開し、透明性を確保することが原則となります。ご異議がなければ原則公開とし、傍聴も認めたいと思います。

また、議事録につきましても公開させていただきます。しかしながら、個人情報に関わることなど、公開を控えたほうがよい情報につきましては非公開として取り扱いますので、ご発言の前にお申し出ください。

なお、議事録の作成のため、審議内容を事務局が録音することに関しても、ご了承をお願いいたします。

また、本日、委員の変更がございましたので、委託及びご紹介いたします。野方警察署の澤根委員のご異動に伴いまして、新たに野方警察署生活安全課長、新實康德委員にご就任いただきました。ただし、本日は、新實委員の代理出席の方がいらしていますので、自己紹介をよろしく願いいたします。

○細川代理

課長が澤根から新實のほうに昨年の8月に代わりまして、今日ちょっとすみません、所用で課長が来られないものですから、代わりに防犯係長の細川と申します。本日はどうぞよろしくお願い致します。

○事務局 鹿島課長

では、細川係長、代理委員にご就任いただき、ありがとうございます。では、令和5年10月1日からのご就任をお願いしておりました新實委員の代理ということで、細川委員に代理出席していただいております。新たにご就任された新實委員よりご所属、お名前のご紹介をお願いいたしますということで、細川委員に今自己紹介いただきました。ありがとうございます。

それでは、私の議事進行役はここまでとさせていただきます、大塚会長にこれからの進行、よろしく願いいたします。

○大塚会長

ありがとうございます。それでは、改めまして、令和6年最初の会議というふうになります。年明け早々いろんなことが続いておりまして、とても「おめでとうございます」と言える気持ちではございませんので、早速入りたいと思います。

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思いますが、代理の細川委員が初めてということもありますので、毎度の方は申し訳ないですが、簡単に経過だけ振り返ってから始めたいと思います。

平成31年、区長の附属機関として設置された当審議会の第1期は、当審議会に自殺対策計画の策定の基本的考え方と当計画に盛り込むべき事項についてということで諮問があり素案をまとめました。第2期の今回、区長から、今度は自殺対策計画の改定に当たって次期計画の基本的な考え方と盛り込むべき事項等についてということで、来年度、もう迫っておりますが、4月に発表予定の次期計画の改定に向けての審議ということで、もう多分今期は今日が最終回ということになるかと思っております。

前回第6回審議会では、素案に対する区民の意見を募集する意見交換会がちょっと寂しかったという報告がありましたが、意見交換会を実施して案となった内容を皆さんにご確認いただきました。今日は、パブリック・コメントが終わっておりますので、そこに頂いたご意見の確認とそれを受けて最終案となった計画案の確認が主な作業となります。ということで、大分何回も繰り返してきている内容の最終版ということになりますので、もし何かあれば今日が最終の意見を言える機会ということになりますし、なければ、繰り返し確認をしておりますので進めていければというふうに思っております。

それでは、まず資料の確認をお願いいたします。

○事務局 鹿島課長

それでは、お手元に配付しております資料の確認をさせていただきます。

配付資料1、中野区自殺対策審議会委員・事務局一覧、これがまず資料1ということになります。次に2番目、資料2、パブリック・コメント手続実施結果報告、これが資料2になります。資料3、第2期中野区自殺対策計画(案)、これが分厚い冊子になります。次、資料4、第2期中野区自殺対策計画【概要版】、A3判の一枚開きの資料が資料4に当たります。次、計画のタイトル案について、資料5というのがございます。資料6、自殺対策計画(第二次)改定スケジュール、これはA4の横の印刷になっております紙でございます。参考資料としまして、「若者向けこころのちのゲートキーパー養成出張講座」チラシ、ゲートキーパー研修の案内ということで、カラー版のチラシになります。

以上が今日お配りしております資料になります。

○大塚会長

ありがとうございます。それでは、早速、資料2のパブコメの状況についてご報告をお願いします。

○事務局 鹿島課長

それでは、事務局より説明させていただきます。資料2をご覧ください。下は、先ほど大塚会長からもご説明があったパブリック・コメント手続の実施結果報告書となります。

昨年の11月24日から12月14日の3週間の間、計画案を公開し、広く区民の方からのご意見を募集する場となるパブリック・コメント手続を実施いたしました。そこで寄せられたご意見とそれに対する区の考え、パブリック・コメント手続を経て、変更した箇所についてご説明いたします。

期間中ご意見は3件寄せられました。提出方法は、メールが1件、窓口が2件でした。資料にはご意見を項目ごとに記載しております。

まず一つ目は、自死遺族支援についてです。自死遺族のやるせない思いは一生消えないということ、そういったことをお伝えしたい、自死遺族の声を政策に反映してほしいという意見でした。

区の考えとしましては、おくやみガイドブックや中野区版の自死遺族向けリーフレットなどで自死遺族が気持ちを表出できる場などを確実にお伝えしていくこと、また、自死遺族の方の思いを伝えていく場については、遺族の方への負担にも考慮しながら形式については検討してまいります。

裏面に移りまして二つ目のご意見です。こちらは若者の居場所についても掲載をお願いしたいというご意見でした。

これに対しては、区としても、居場所も相談場所の一つとして捉え、掲載していく方向とさせていただきます。

三つ目は、基本理念について。自殺が個人の問題ではなく社会的に追い込まれた末に起こることであること、他人ごとでないことが伝わる理念であり、これを計画全体に感じられるものになればというご意見でした。

区の考えとしましては、この理念を前提に誰もが孤立することなく、重層的な支援の中で必要なサポートにつながられるように自殺対策を進めていく考えを示しました。そして提出された意見により、変更した箇所とその理由については、先ほども申し上げた若者の居場所について中野区若者フリースペース「まごころドーナッツ」を追加いたしました。

以上です。

○大塚会長

ありがとうございます。3件頂いたということと、その頂いたご意見を受けて1箇所訂正をしたということになっておりますが、この3件頂いたご意見を踏まえて、1箇所の訂正以外にご意見とかご質問がありましたら頂きたいと思います。

追加のお願いで、私が存じ上げていないので、「まごころドーナッツ」というのをちょっとご説明いただけると大変うれしいのですが。

○事務局

子ども・若者支援センターが中野坂上のほうに設置されましたけれども、その開設と同時に開所された若者向けのスペースになりまして、中野区がある事業所に委託をして行っています。若者は、学生さんから39歳未満のどなたでもお越しになれるようなスペースになっておりまして、基本的にはフリースペースというところなので、来て、何か学習をしたりとか思い思いのことをして過ごす場ですけれども、その中でちょっとしたプログラムがあったりして、そこで集まった人同士で何かやったりということもあるような形で運営しているというふうには聞いております。

○大塚会長

どなたかスタッフさんがいらっしゃるんですね。

○事務局

そうですね。

○大塚会長

実際に大分活用されているのでしょうか。

○秋元委員

そうですね。NPOの方が運営していて私どもの事業でも連携する機会が多い団体です。大倉委員もご存じだと思いますけど、地域から孤立している若者が多く集まり、その若者たちを町会・自治会のイベントや地域活動団体に積極的に参加するよう促し、社会的なつながりをつくるよう活動を進めています。地域からも信頼されている団体です。もちろん中野区の委託事業でやられているのですが、このような若者の孤独・孤立対策を先駆的に実施されていますので追加すべき団体と思います。

○大塚会長

実際に例えばひきこもりの方だとかがいらっしゃったりしているのでしょうか。

○秋元委員

そうですね。ひきこもりの方もいらっしゃいます。

○大塚会長

ありがとうございます。去年開始をされたところですよ。

○事務局

令和3年11月から開設されています。

○大塚会長

まだ新しいところですよ。はい、ありがとうございます。

具体的にはその訂正・追加ということで、あとは確認をしたという形になっているかと思います。

それでは、第2期中野区自殺対策計画（案）についてご説明をお願いいたします。

○事務局 鹿島課長

それでは、事務局よりご説明させていただきます。資料3をご覧ください。第2期中野区自殺対策計画（案）となります。前回の計画案から大きく変更した部分はありませんが、図表の調整や先ほどの意見交換会の意見を受けて変更した部分がございますので、その部分を中心にご説明いたします。

2から3ページをご覧ください。国と東京都の自殺者数の年次推移の表ですが、横軸の年数について西暦と和暦を両方掲載しておりましたが、文字が小さく見にくかったため、H何年と簡易的な表示にしました。また、人口動態統計にて令和4年の数値が出ましたので追加しております。

31ページ、上部の図をご覧ください。この計画が中野区の各種計画のどこに位置しているのかを示す図となりますが、若干修正を加えました。43ページの赤字部分をご覧ください。先ほどのパブリック・コメント手続に寄せられた若者の居場所について、区で委託して展開しているフリースペースを掲載いたしました。

62ページをご覧ください。計画策定までの経過ですが、パブリック・コメント手続と本日の審議会について追加いたしました。

69ページをご覧ください。こちらは、区民向けに配布している相談窓口の一覧です。中野区の事業についてはオレンジ色で色づけしております。

変更箇所の説明は以上となります。

○大塚会長

ありがとうございました。大分何回も見てきたものを改めて見るというのなかなか難しいのですが、直前の資料送信だと思いますので、最終版をしっかりとじっくりお読みいただけているかどうか分かりませんが、それでも、具体的に文言修正ということになると今日が最後の機会ということなので、もう一回改めてご自分の関心のあるところで結構ですので、表現とかそういうことについて少しご確認いただ

くための時間を設けたいというふうに思います。できれば具体的にここはこうしたほうが良いというようなことでのご意見の今日はレベルにしたいと思いますが、お願いしたいと思います。

(資料確認)

○大塚会長

それでは、まだ時間が足りないという方もいらっしゃるかもしれませんが、見つけた方というか、何かある方、どうぞおっしゃっていただければと思います。

○小林委員

51 ページの7番の性的マイノリティのところですが、今、割と大学など教育の場でも、エイズに関する相談で、「同性愛者等のハイリスクグループ」というくくりはなるべくなくすというか、かえってこういう文言が偏見を生むので、入れるなら「ハイリスクグループ」だけにしたほうが良いんじゃないかなと。これをイコールのように扱うのはちょっと区としてはよくないかなという感じがします。

○大塚会長

7番の性的マイノリティのところの表の四つ目のエイズに関する相談・検査の3行目末ですね。「同性愛者等の」を削ってもらって、「ハイリスクグループへの」でいいのではないかということですね。必ずしも同性愛者だけではないので。

○事務局 佐藤保健所長

それは、ハイリスクグループがH I Vに関するハイリスクか、もともとそこをやめるということですか。自殺対策のハイリスクということですか。これは、H I Vの話が入ったというか、これはここにあっていいのかどうかはまた別な問題ですけど、H I Vのハイリスクというのが同性愛者という表現はやめたほうが良いという意味ですね。

○小林委員

それは、また違う場面では保健所のほうで必要なのかもしれませんが、自殺対策のこの冊子の中では不適切に近いかなという感覚を持っただけです。そこはまた区のほうでどうしてもということでしたらどうということはないですけども。

○事務局 佐藤保健所長

別にそういうことでは。どちら側かなと思ったので。じゃあ、「同性愛者等の」のところをカットしてしまえば大丈夫でしょうか。

○大塚会長

はい、お願いします。ほかはいかがでしょうか。私も幾つかいいでしょうか。

後ろから行きます。56 ページですが、用語解説のところで見つけちゃいました、まず。下のは行のところのポピュレーションアプローチの最後、「誰もが行きやすい」は、これは「生きやすい」ですよ。

○事務局 佐藤保健所長

そうですね。失礼いたしました。

○大塚会長

それと、同じく上のさ行のところの性的マイノリティで、どうしようかなと迷うんですが、最後のLGBTQのところ、せっかく今だから、LGBTQ+（プラス）まで入れたほうが良いんじゃないかなとちょっと思ったのと、ゲートキーパーのところですが、これは私の個人的感覚ですけど、この審議会の中でも意見が出た気がするんですが、「命の門番」という言葉の響きが重いのでという話があった

と思うので、直訳すれば「命の門番」なんだけど、「命の門番」を入れなくてもいい気もしないでもないんだけど、どうですかねというところです。

○事務局 佐藤保健所長

カットしましょうか。

○大塚会長

はい。それと、36 ページの一番下の取組の方向性の自殺対策強化月間のところですが、9月と3月、両方とも月間でしたか。

○事務局

東京都で指定しているのはどちらも月間です。

○大塚会長

そうなんですね。

○事務局

国が9月を予防週間としています。

○大塚会長

国が週間と月間で、東京都は両方月間なんですね。では大丈夫です。すみません。

それと32 ページですが、これも間違っていたらごめんなさい。自殺対策の推進体制の中野区自殺対策計画推進会議は、まだ仮称でしたか。

○事務局

一応来年度よりやるということなので。

今の段階では仮称になります。

○大塚会長

仮称でいいんですね。分かりました。

○事務局 佐藤保健所長

こちらは仮称でいかせてもらっていいでしょうか、すみません。

○大塚会長

25 ページについて。これは代理の細川委員にお聞きしたいですが、25 ページの下から4行目のところ、これはこのまま出ても大丈夫かなとちょっと気になって、「警察官が対応する自殺未遂者に「自分の命は自分の好きなようにして良い」といった考えを持つ人が」のところですが、「自殺未遂者」にそういう考えがある、ということでもいいのでしょうか。

○細川代理

そうですね。私は聞いたことないですけど。

○大塚会長

警察官が対応する自殺未遂者になんですよ。

○事務局 佐藤保健所長

まあ、多いかどうかはちょっと分からないですけどね。

○細川代理

そうですね。「者がいる」とかぐらいにしておいたほうが。

○大塚会長

何かちょっと気になります。

○細川代理

そうですね。

○大塚会長

それと、このページを見て気がついたんですが、※印で用語解説につながるものがあるじゃないですか。この※印は出てくるたびに全部つけていますか。

○事務局

はい、一応。

○大塚会長

それは、すみません、たくさんの目でまた見ていただくと、ついているページとついていないページがありますので、逐一言いませんが、チェックをいただけるといいと思います。

○事務局

分かりました。

○大塚会長

これは今後の課題にさせていただいてもいいのですが、たまたま見た 41 ページの「対象者に合わせた「生きる力」の促進」、これ以外のところでもたくさん使っているんだと思うんですけども、1行目に「精神保健上の問題ではなく」と書いてあるんですが、私の個人的な感覚かもしれません。「精神保健」という言葉ってあまり何か、一般市民が身近に感じてくれない気がしていて、片仮名だからいいということとはちっともないんですけど、何か「メンタルヘルス」のほうが近い気がしていて、でも、たくさん多分この言葉は使われていると思うので、今回じゃなくてもいいのですが、どこかでご検討いただくといいかなと改めて思ったりしました。

ほかの方、何か。お願いします。

○松田委員

49 ページの「精神疾患を抱える人への支援の強化」の部分ですけども、幾つか出てきているんですけども、相談をやっているところは相談をやっていると明確に分かるようにしていただけたらいいのかなと思いました。例えば、「せせらぎ」なんていうのは、精神障害者、精神疾患に対するご家族とかご本人の相談に乗るところですけども、相談事業があるんですけども、ここには書かれていないですね。「相談」という言葉を入れていくと、これを見た方が来やすくなるのではないかなと思います。ほかにももしかしたらそういうのがあるかもしれないなど。

○大塚会長

「暮らしを支援し、安心してくつろげる場を提供しているとともに、相談事業を行っています」とかみたいな感じですね。

○松田委員

そうですね。50 ページの障害者相談支援事業所、すこやかの中にある相談支援事業所、ここは事務作業が中心というわけではなくて、やはり障害者の相談に乗るということが。

○大塚会長

どこですか。「区内5か所」というものですか。

○松田委員

そうです。上から五つ目です。区内4か所。

○大塚会長

「区内5か所」と書いてあるものですか。

○松田委員

「区内5か所」の一つ上です。

○大塚会長

ああ、「区内4か所」。

○事務局 鹿島課長

障害者相談支援ですね。

○大塚会長

障害者相談支援事業ですね。

○事務局 佐藤保健所長

ケースワーク業務の中に相談って入っていると思うんですけど、そのクライアントというか、その方々が直接相談支援事業所に行かれるんですか。すこやかな保健師を経由することが多いかと思いますが。

○松田委員

例えば、3障害の中の精神障害の場合には保健師さんを通すことも多々あるんですけども、知的、身体の場合には恐らく通さない。

○事務局 佐藤保健所長

そういうことですね。

○松田委員

それなので、言葉が入るとちょっと違うのかなと。

○大塚会長

松田さん、ここ3行目に「障害者総合支援法に基づく相談支援業務や」と書いてはある。

○松田委員

そうですね。

○事務局 佐藤保健所長

障害者の総合相談・福祉サービスの申請取次業務のほか、相談支援業務や障害福祉サービスの利用支援などのケースワーク業務を行っています。

○大塚会長

そもそもが漢字ばかりで、なかなか見づらい。

○事務局 佐藤保健所長

読みづらいですね。全部入れるとこういうことになっちゃうんですね。でも、まあ、相談支援業務が入っているから、ここはこれで大丈夫ですか。

○大塚会長

もし可能であれば、4行1文なのでちょっと区切っていただいて、少し分かりやすく読みやすくしていただけるといいかもしれないですね。

○事務局 佐藤保健所長

はい。

○大塚会長

最後まで丸がないですね。医療中段予防訪問等事業もそうですけど、5行1文ですから長いですね。

可能な範囲でいいと思うんですが。医療中段予防訪問等事業のところの、例えば2行目の響きが、「必要性が高いにも関わらず」みたいな、何となく当事者たちが悪いように、こういう響きが伝わるので、「精神科医療の必要性が高い方々が」とかと言っていただいたほうが何となくよいですね。可能な範囲

で修正お願いします。

○事務局 佐藤保健所長

「方々で」にしましょうか。

○大塚会長

その表現はともあれ、完全なる間違いとか、ここは追加とか修正は大丈夫でしょうか。

もし万が一何か見つけた場合には、また、なるべく急ぎで事務局にお知らせいただければというふうに思います。

これは最終確定というのはいつですか。

○事務局

2月に区議会のほうに提出しますので、そこで通れば、確定になります。

○大塚会長

今月中ぐらいですか。

○事務局

そうですね。今月中と2月の初めぐらいまでです。

○大塚会長

では、万万が一何か大きな致命的ミスを見つけた方はお知らせいただければというふうに思います。

では、次のところに行きたいと思いますが、資料4はこれの概要版ということなので、特に大丈夫ですか。いいですか。確認するだけで。

○事務局

はい。

○大塚会長

ホームページに両方出るとのことですよ。概要版が出て計画版が出るということですね。

では、資料5に関連する内容に移りたいと思います。自治体によって第何期自殺対策計画という、非常に堅いタイトルのままで行くところもあれば、サブタイトルをつけるところもあれば、柔らかいものをメインタイトルにしているような自治体もあるようですが、今までの中で何かサブタイトルで少し柔らかめのものがあってもいいのではないかという話がありました。ということで、資料を作っていました。

では、資料5を見ていただいて、東京都とか幾つかの区がこういうものをつくっていますという内容があります。中野区のほかの計画のキーワードも出ていますが、サブタイトルというか、区民が親しみやすい計画のタイトルについて、もし何かご意見があれば頂きたいというふうに思います。

つけなくていいよというお考えもあろうかと思いますが、皆さんどうぞ、ご意見を頂けたらと思いますが、いかがでしょうか。

こういう標語を作る機会が多そうな先生方、いかがですか。

○事務局

旧計画は「中野区自殺対策計画」なんですけど、「～」でサブタイトルがついていて、「～いのちを守り、つまずいても再出発できるまち中野～」というのがついておりました。

○大塚会長

「～いのちを守り、つまずいても再出発できるまち中野～」。

パブコメも3通でしたし、意見交換会も寂しかったですが、区民の方に、例えば学校で、この計画全てを小・中学校で扱うなんて無理だと思うんだけど、例えば、これを扱ってグループディスカッションしようかというようなことをやってもいい

気がするんですが、そういうときに何とかプランみたいに、認知症計画だと国は今オレンジプランじゃないですか。そういうような呼びやすいというか、扱いやすいものとか何かあるといいなと思います。

何か自治体で、例えばこういう政策のマスコットみたいなのを作っている自治体ってあったりしますか。ロゴマークとかありますか。

○事務局 佐藤保健所長

自殺対策で、でしょうか。

○大塚会長

私が関わっている犯罪被害者等支援では、警察の取組で「ギゅっとちゃん」というマークを使っていますが、自殺対策は何かありましたか。

○事務局

国がマークを作っていて、みなさん見たことあるか分からないんですけど、人の顔が四つ並んで、四角っぽい感じのマークです。これは今回どこにも載せていないのですが。

○大塚会長

それは何か通称があるんですか。

○事務局

一応成り立ちとしては、人が支え合っていることをモチーフにしているらしいんですけど、それが4色なので、自殺対策強化月間になると、都庁がその4色カラーに染まったりとかは、実はしているみたいですよ。

○大塚会長

あまりでも知られていないですよ。

○事務局

知られていないです。ピンクリボンとかレッドリボンに比べると。

○大塚会長

ここでタイトル案が出ない場合は、そのまま1期の継承になるんでしょうか。

○事務局

現計画のサブタイトルが、基本理念と同じなんです。なので、今回この新計画のほうの基本理念は、「誰もが つながり 自殺に追い込まれることのないまち なかの」をつけていて、その基本理念をそのままサブタイトルにつけてしまうというのも一つありかなと思っております。

中野の基本計画もそうですが、「つながる」などが、中野区の大事にしている部分だと思いますので、そういったワードは入れたいなとは思っております。

○大塚会長

なるほど。そうすると、特にここで意見が出なかったら、ここに書いてある「誰もが つながり 自殺に追い込まれることのないまち なかの」になるんですね。これを上回る名案があったらお願いします。

○事務局 佐藤保健所長

サブタイトルに「自殺」という言葉がそのまま入っているのは、ちょっといかがなものかなと思って、逆に、今事務局が申しますように、「つながる」はやっぱりどこかに入っているほうが中野区らしい言葉かなと思っていて、本当はこの基本計画にあるように、「つながる はじまる なかの ところといのちのサポートプラン」でもいいんですけど、自殺計画に「はじまる」という言葉があまりそぐわないなと思って、このままちょっと使えないかとも思いますが。

○大塚会長

つながる、支えるとか、つながり合うとか、支え合うとかね。

○事務局 佐藤保健所長

そうですね。

○大塚会長

「人とところがつながるなかの」とかね。

○事務局 佐藤保健所長

じゃあ、締切りを決めて提案していただけますか。

○大塚会長

多分、葛飾区さんなんかも、きっとそのまま文章から取ってきているのかなという気はしますけどね。若干長い感じと、もうちょっとキャッチーな感じがあるといいのかなと、個人的な見解ですが。

締切りを決めて募集しますか。

○事務局 佐藤保健所長

そのほうがいいでしょうか。

○事務局

例えば何個か案をお示しして、逆にその組合せでこんなものみたいのがあれば出していただいて、それを皆様に後日メールでお送りするというところでよろしいでしょうか。

○大塚会長

投票するのですか。

○事務局

投票という感じで。

○大塚会長

「すこやかに未来へつなぐサポートプラン」とかね。

では、期日を決めていただいて、皆さんゆっくりお風呂でも入りながら考えていただいて。

子どもから高齢者まで気軽に身近に言えるようなあれがいいと思いますけどね。そのうちこういうのを普及啓発に使って、そういうのを子どもたちに、例えば標語を作ってもらうとか、マスコットを作ってもらいたいなことで自殺対策の普及啓発なんかしてもいいかもしれないですしね。

○事務局 佐藤保健所長

お時間があれば、今中野では子どもの意見を政策に入れるというのを掲げているので、例えば、1校でもいいので、そこでみんな考えてもらったのを採用とかもあったと思うんですが、これにはちょっと時間が足りないかなと思って、本来はそれを夏ぐらいから準備させていただければ、小学生とか中学生とかで考えてもらえるチャンスがあったかなと思うんですが、ちょっと難しいですよ、今からだね。

○齊藤委員

なかなか学校の中もいろんなお子さんがいるので、一律にやるのは、結構配慮が必要かなという気はするんですよ。身近に自殺で、お父さん、お母さんじゃなくても、亡くしているようなお子さんもいるし、本人が知らないケースもあると思うんですけど、ちょっとやっぱり重くなっちゃうというか、保護者の了解を得た上のほうがいいのかというケースもあります。オープン、要するに、まちでオープンになっていて、やりたい人はどうぞくらいのほうがいいのかもかもしれません。

○事務局 佐藤保健所長

応募してもらうなどですね。

○齊藤委員

そうですね。

○大塚会長

区でやれるといいですよ。今回の計画の中の普及啓発のところに乗じて、例えば、第3期中には、小・中学校のキャンペーンでそういう標語を区民から集めるとかね。

○事務局 佐藤保健所長

次期の中の一つのイベントとして標語募集みたいな。

○大塚会長

そういうのがあると、そういうのでポスターを作っていくとね。

○事務局 佐藤保健所長

やっていきたいと思います。

○大塚会長

では、皆さんに呼びかけをしていただいて。すみません、一つも出なかったということのないようにお願いできればと思いますが、どうでしょうか。お願いいたします。

ということで、今日の予定の内容はこれで全てということになりますが、このゲートキーパーの養成出張講座のご案内とか、特によろしいですか。

○事務局

これはちょっと最後に説明させていただこうかと思います。

○大塚会長

事務連絡をお願いいたします。

○事務局 佐藤保健所長

すみません、会長、資料6の説明が。

○大塚会長

そうですね。スケジュールのことも含めてお願いします。

○事務局 鹿島課長

それでは、資料6に沿ってご説明いたします。

本日今期最後の審議会が終了いたしますので、本日のご意見を受け、修正を加え、計画を確定版とし、庁内会議、議会へ提出し、そこで計画確定となります。そして、令和6年4月に計画公表となります。

また、最後に参考資料、若者向けこころといのちの出張講座、チラシの説明を事務局のほうからさせていただきますので、よろしくをお願いします。

○事務局

では最後、このピンク色のチラシのほうの説明をさせていただきます。この審議会ですべての皆さんにデータを見ていただいて、結構中野区の若者の自殺者が多いよという話になって、若者向けの事業を強化しなきゃねという話でできたところで、大学さんだったり専門学校さんに出張講座を行うという事業を、もうこれは早いほうがいいということで今年度中に組み立てて、11月頃から開始し、区内の大学さん、専門学校さんにチラシを配ったところです。反応としては、東京アナウンス学院さんという弥生町一丁目にある、アナウンサーだったりとかユーチューバーだったりを養成するような専門学校さんのほうから依頼が来まして、今回学生さんというよりは一旦教員のほうにやってほしいというご依頼でした。その後、学生さんに展開するというのも前向きに検討してもらおうという前提でやっていくというこ

とになりました。あまり接点がない学校さんにもアプローチしていけば、打ち返しがあると感じた次第でした。来年度は4月からきちんと周知ができますので、より多くの大学さんなどにご依頼いただければなというふうに思っています。こちらの審議会でも皆様にご意見を頂いたかと思いますが、このような形でやっておりますので、よろしくお願ひします。

○大塚会長

これは実際には委託をした講師か何かが講座をやるということですか。

○事務局

そうです。

○大塚会長

OVA（オーヴァ）の伊藤さんたちですか。

○事務局

ゲートキーパーTONARINOさんというNPO法人がございまして、事業所自体は新宿にある法人さんなんですけれども、他の自治体さんのゲートキーパーを請け負っていて、学生さんに対する実績もあります。こちらの事業所はすごく前向きに受けていただけて今やっていたところなんです。

○大塚会長

それでは、またその後の反応としてフィードバックをいただければと思います。ありがとうございます。

今ご説明がありましたが、資料6にありましたように、大変長い期間かかりましたけども、ここまで来ました。来年度の4月からの第2期計画については、もういよいよスタートになります。私たちの任期は8月までということだそうなので、今期は作業としては先ほどのサブタイトルの話が来ますし、もしミスを見つけたらみたいなことがありますけれども、大きいところはこれで終了になっていくと思います。あとは第2期の計画が出たときに、ぜひ身近なところで周辺に声かけいただいて、それを普及していくという役割をまた皆さんに担っていただけたらというふうに思っております。

何か最後にこれは言っておきたいともしありましたら。いかがでしょうか。ないでしょうか。

それでは、今日は大変早いですが、一応ミッションは終わりましたので、これで閉会をしたいというふうに思います。

○事務局 鹿島課長

本日は皆さんお集まりいただき、貴重な意見を頂き、誠にありがとうございました。本日の審議会の内容は、この後、我々のほうでまとめて議事録として公表いたしますので、公表前に必ず皆さんにはメールでお送りします。都合の悪いところとか何かそういう発言がありましたところは、ぜひこちらに指示していただければ省きますので、それを基に公表させていただきます。

それで、今回で第2期の自殺対策審議会は、先ほど会長がおっしゃられたように終了ということになりますので、計画改定年度ということで、皆様には諮問に対する答申をご提出いただいたり、計画への様々な意見を頂きまして、誠にありがとうございました。合計で7回と大変回数も多かったのですが、毎度ご出席いただきまして、大変ありがとうございました。

この後、2月の議会で承認を得ましたら、令和6年4月に第2期計画が公表となります。皆様のお手元にも冊子をお届けいたします。今後、次期、第3期の審議会にて進捗管理をしながら、この計画を有効に活用してまいりますので、皆さんよろしくお願ひ申し上げます。

最後に会長のほうから。

○大塚会長

本当に皆さん長い間ありがとうございました。また、同時によろしくお願ひいたします。
ありがとうございました。お疲れさまでございました。

(閉会)